

「令和時代の新しい教育」と「ポストコロナ時代への示唆」
2020年 冬号 vol.19

公共空間

公共政策・実務の最前線を届ける情報誌

公共空間 vol.19 目次

令和時代の新しい教育

02

令和時代の教育

～ GIGAスクール構想の展望 ～

箕面市教育センター 川畑様・岩永様

07

コロナ禍で見えてきた ICT 教育の意義

～子供たちの学び いかを守るか～

京都市教育委員会総務課 主任 渡辺 拓様

13

日本らしい教育の在り方とは

～2020年教育改革を再考する～

九州大学大学院比較社会文化研究院

教授 施 光恒

ポストコロナ時代への示唆

19

現代貨幣理論(MMT)から考える
経済政策

京都大学公共政策大学院・

大学院経済学研究科 教授 岡敏弘

24

しま医者が示唆する新しい医療のかたち

与那国町診療所 医師 崎原永作

新任教員インタビュー

28

京都大学公共政策大学院

准教授 坂出 健

32

京都大学公共政策大学院

教授 川瀨 昇

自主活動紹介インタビュー

36

長浜まちづくり研究会～連携先との対談～

卒業生寄稿文

39

公共政策大学院で学ぶ意味とは？

京都大学公共政策大学院十四期生 白石 航

45

これから公共政策大学院で学ぶ皆さんへ

京都大学公共政策大学院十四期生 平野 晶子

皆様こんにちは。『公共空間』編集委員会です。

「令和になって教育業界では何が変わったのだろう」「感染症の流行は教育にどのような影響を及ぼしたのだろう」。そのような疑問から、最近特に変化の大きかった教育業界の実態に迫ることにしました。さらに改革の動きは教育の分野だけでなく、医療、財政、経済など様々な分野で加速しています。変化のスピードが速くなる世の中で新しい考えを吸収することは大きな意味を持つでしょう。

普段なかなか知ることのできない分野の現状や新しい動きを少しでも皆様にお伝えできれば幸いです。

◎編集後記◎

はじめての取材・編集はわからない点多々ありましたが、実際やってみると興味深いお話が聞けたので非常に楽しかったです。(梅本)

以前にも雑誌の編集をお手伝いすることはありましたが、記事執筆までを全て自分で行ったのは今回が初めてであり、大変貴重な経験となりました。本誌完成までにご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。(小林)

コロナ禍の教育行政の最前線のお話しを取材できたことは、私自身にとっても大変貴重な経験になりました。ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。(齋藤)

今まで知らなかった分野について取材するのは難しかったです、とてもいい経験になりました。執筆の過程でも協力していただいた岡先生や公共空間のメンバー、雑誌作成に関わってくれた皆様には心より感謝申し上げます。(山口)

先輩方の活動を引き継ぐ学生がいなくという事で代表を引き受けて次の世代にバトンをつなぐことを第一に活動してきました。結果として自分たちの代でも「公共空間」の発刊を継続することができ、後輩に活動を引き継ぐこともできました。取材を受け入れてくださった方々や発行の手助けをしてくださった教務掛の方々、寄稿してくれた同期に感謝申し上げます。(吉田)

『公共空間』二〇二〇年（通巻第十九号）

発行人 『公共空間』編集委員会

編集長 吉田 岳史

編集委員 梅本周晟

小林 彩葉

齋藤 瑞生

山口 真希

編集顧問 建林正彦

編集協力 公共政策大学院掛

京都大学公共政策大学院

『公共空間』編集委員会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学法学研究科公共政策大学院掛

「京都大学学術情報リポジトリ 紅」

<https://repository.kulib.kyoto-u.>

ac.jp/dspace/ にも掲載

雑誌『公共空間』学生投稿募集について

雑誌『公共空間』は学生投稿枠を設け、
皆さんの原稿を募集します。

1. 内容

公共政策に関するものであれば、テーマは自由です。
授業で作成したレポートやプレゼンテーション資料を用い
てもらっても構いません。
(ただし、文書形式でお願いします)

2. 字数と 書式

3500～4500 字程度。書式は自由。

3. 応募締め切り

各号毎に締め切りを設定します。

4. 応募条件

本大学院に在学する学生であること。

5. 応募宛先

『公共空間』編集委員会にお問い合わせ下さい。

